



「問題二」 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

現代日本語には「社会人」という語彙がある。新年度、つまり四月一日になると新聞、テレビ総動員で各企業の新入社員の入社式のことを報道し、あたらしいスーツとネクタイ姿の若者がその抱負をのべたりする。そんなふう就職した青年たちのことをなぜか「社会人」になったというのである。たぶん、**ア**「ヒト」は「一人前」としてみとめられる、ということなのであろう。

だが、そんな区切りをつけなくても、「ヒト」は生まれたときから「社会人」なのである。世間に仲間入りしているのである。生まれたばかりの赤ちゃんにとつて、はじめて経験する「世間」すなわち「社会」は母親の声であり、肌の触覚であろう。そして、間もなく、こんどは父親だの親族だの、あるいは近隣のひとびとだの**イ**。「人間」はそこからだんだんと「世間」に接してゆくのである。

「人間」という二文字を「ジンカン」と読む用例は八世紀の『続日本紀』に「禪師即誓、永絶人間、侍於山陵、転読大乘、奉資冥路」とあって、これは「世間」とほぼ同義。これを「ヒト」という意味で使った事例は『今昔物語集』に「天人は目不瞬かず、人間は目瞬く」とあるのが初出らしい。十二世紀のことである。つまり語誌からいうと**ウ**。「人」と「人」との「間」に生まれてくるのだもの、人間はもともと世間に所属しているのである。

いまわたしは「人」と「人」とのあいだ、といったが具象的な意味でも「人間」は「人の間」の産物だ。ひとりの「人間」が生まれるのは両親、すなわち夫婦あつてのことである。いうまでもなく人類という生物の「種」は、男と女の配偶関係によつてつづいてきた。「ヒト」はすべて親の子である。両親あつての「ヒト」なのである。おおくのばあい、婚姻届のある夫婦が両親だが、さまざまな理由で、「夫婦」以外の男女のあいだに生まれたことももある。

むかし「家族」は「男女とそのあいだに生まれた子どもから成る集団」と定義された。しかしこれではいろんな例外が発生してきたから、このごろでは「家族」の定義はアイマイで不可能にちかいものになっている。だが親のいない人間は存在しない。親子きょうだいという「血縁」という名の集団こそが、ひとりの「ヒト」が経験するさいしょの世間なのである。

そんなふう「社会人」として生まれた子どもは、すこしずつ世間をひろくしてゆく。ベビーカーにのせられてそとにでれば知らないひとが目にはいる。ときには声をかけてくれたりする。バスや電車のなかでは何十人、何百人もの人間がいることを知覚する。保育所だの幼稚園だのをはじめ「ともだち」ができる。いっしょに遊ぶがケンカもする。ときには「いじめ」を経験したりもする。

そのあと、小学校、中学校と学校生活のなかで、いよいよ「世間」はひろがってゆく。苦勞もする。そして、人間十二、三歳にもなると、すこしずつ**エ**がはじまる。京都では「十三詣り」といって男女とも十三歳になったら虚空蔵菩薩にお詣りにゆく。ここから「ヒト」は独立するのである、そして親もとの外側にある世間にすこしずつはいつてゆく。**オ**、ひとりの豆粒のような人間をとりまいている家族あるいは血縁集団というちいさな円が、その外側にむかって大きな同心円にふくらんでゆく。それが「世間」なのだ、といつてもよい。そこから人生という名の旅がはじまるのである。

普通教育が普及するまえの村落で、家族からはなれた少年たちがまず経験するのは「若者組」という同年配のこどもたちの集団であった。「年齢階梯集団」である。地方や時代によつて、その運営方法はちがうが、村の少年たちは「若者組」にはいる。ときに「若者宿」という合宿所のようなところで**A**起居をともにすることもあった。女の子にはべつに「娘宿」があつたりする。この同年輩の仲間のなかで先輩は後輩にさまざまなことを教え、その経験によつてすこしずつ世間への目をひらかされたのである。やがて教育制度がとつてくると、若者組のかわりに、同年輩のこどもたちはおもに学校をつうじ

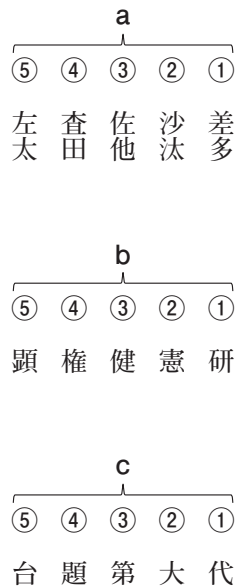
て「仲間」をつくるようになった。学校での同級生も仲間だし、公園でサッカーをする仲間もある。おむねほがらかで、たのしそうだが、初期反抗期の少女だから、しばしばこういう仲間はあれこれイタズラをしたり、ときにはよからぬこともする。ケンカや暴力 **a** ザタもある。 **B** 「世間の風」はとぎとして冷たいのである。

こういう都市の青少年のグループのことをアメリカ英語では「ギャング」という。ウィリアム・ホイット (William Whyte) の『街かどの仲間たち』 (*Street corner society* 一九四三年) という本はアメリカの大都市でのイタリア系青少年のギャング集団のみことな研究だった。いや、映画『ゴッド・ファーザー』のはじまりの部分で貧民街の少年たちがどんなふうに育っていたかを見るだけでもその事情はわかるだろう。

十二歳というのは労働力として役に立つ年齢でもあったから、むかしは都市にでて商家などで丁稚奉公をする男の子もおおかった。女の子は女中奉公。こうした若年の「出稼ぎ」は十八世紀なかばから **b** ケン著になってきた。番頭、**c** 手ダイといった親代わり、きょうだい代わりの先輩や上役がたくさんいて、いろんなことを教えてくれた。もちろん親切に教えられるだけではない。イジめられたり、意地悪されたり、ダメされたり。そんな「世間の風」によって人間は成長したのである。そんなふう<sup>も</sup>に世間で採まれてだんだん一人前になってゆくことを「社会化」 (socialization) と<sup>こ</sup>う。

(加藤秀俊『社会学―わたしと世間』による)

問一 傍線部 a ｾ c のカタカナ部分の漢字をそれぞれ一つ選び記号で答えなさい。解答は a ｾ c の順にマーク用解答用紙の  ｾ  にマークしなさい。



問二 空欄  の中に入るもつとも適切な語句を一つ選び記号で答えなさい。解答はマーク用解答用紙の  にマークしなさい。

- ① 厳しい就活から
- ② 現代に至ってから
- ③ 人生のその段階から
- ④ 一年の行事から
- ⑤ テレビ業界から

問三 空欄  の中に入るもつとも適切な語句を一つ選び記号で答えなさい。解答はマーク用解答用紙の  にマークしなさい。

- ① 歓声
- ② 信頼
- ③ 期待
- ④ 感触
- ⑤ 応援

問四 空欄  の中に入るもつとも適切な文を一つ選び記号で答えなさい。解答はマーク用解答用紙の  にマークしなさい。

- ① 「世間」と「人間」はおなじではないのだ
- ② 「歴史」と「人間」はおなじことなのだ
- ③ 「世間」と「人間」はおなじことなのだ
- ④ 「人間」と「ジンカン」はおなじことなのだ
- ⑤ 「禅師」と「天人」はおなじことなのだ

問五 空欄「E」の中に入るもつとも適切な語句を一つ選び記号で答えなさい。解答はマーク用解答用紙の「7」にマークしなさい。

- ① 「親ばなれ」
- ② 「自我」
- ③ 「社会参加」
- ④ 「人間探索」
- ⑤ 「人間不信」

問六 空欄「オ」の中に入るもつとも適切な語句を一つ選び記号で答えなさい。解答はマーク用解答用紙の「8」にマークしなさい。

- ① 理論的にいうと
- ② イメージでいうと
- ③ 全体的にいうと
- ④ 現実にいうと
- ⑤ 仮定的にいうと

問七 傍線部「A」「起居」はどのような意味で用いられているか。それを別の語彙を使った場合、もつとも適切なものを一つ選び記号で答えなさい。解答はマーク用解答用紙の「9」にマークしなさい。

- ① 活動
- ② 寝起き
- ③ 学修
- ④ 鍛錬
- ⑤ 食事

問八 傍線部「B」「世間の風」はときとして冷たいのである」とあるが、それはどういう意味か説明しなさい（句読点、記号を含めて50字以内）。解答は記述用解答用紙に書きなさい。

「問題二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

現代の日本で、宗教の存在感はそれほど大きくない。二〇一二年の国際調査によれば、日本人の三二%が確信的な無神論者で、これは中国に次いで世界二位の割合だという。また二〇一八年のNHK放送文化研究所の調査によると、信仰する宗教がない日本人は六二%にのぼり、「お天道様が見ている」「自然に宿る神」といった意識を持つ人も減少している。いずれの調査も、ア ことを明らかにしている。

他方、年中行事、冠婚葬祭、神社仏閣めぐりなど、日本人が宗教に触れる機会は少なくない。特に二〇〇〇年代以降はメディアの a 拡ジュウによって、その接点は多様化している。ヒーリング、占い、守護霊、風水、パワースポット、開運セラピーといったスピリチュアル文化が広がりを見せ、坐禅やマインドフルネスを研修に導入する企業もある。世界文化遺産を見ても、奈良・京都・日光・平泉・熊野・宗像などの寺社、長崎・天草の教会群、沖縄の聖地など、半数以上が宗教に関わる物件である。

本書の目的は、こうした宗教と日本人の複雑な関係を解きほぐすことにある。その戦略を一言で言えば、信仰と組織を中心とする宗教論からの b 脱キヤクだ。宗教を心や内面の問題に限定せず、信仰・実践・所属の三要素に分解し、教団や教会としてまとまらない、個人を中心とする現象に注目するのである。

宗教という言葉は多義的である。話者や文脈に応じて、宗教団体・寺社・信仰心・祭礼・儀礼実践など様々な意味で用いられる。ある場面では、カルト団体は偽宗教で、神道や仏教のような伝統宗教こそが本物とされる。別の場面では、初詣・葬式・墓参りは宗教ではないと言われる。また、神社でお宮参りをし、キリスト教会で結婚式を挙げ、仏式で葬儀を行う日本人は宗教 c 音チであり、本質的には無宗教であるといった語りもある。

研究者間でも、A 宗教の定義は一定しない。古い資料になるが、一九六一年、旧文部省が刊行した『宗教の定義をめぐる諸問題』には、国内外の論者による一〇〇以上の定義が収集されている。宗教を永遠の神への信仰、完全への憧憬、神の模倣、従属感と義務の意識、恐怖が生み出した病気とするものなど様々である。

そして現在も、各地の祭礼、霊山登拝、青森や沖縄の民間霊能者、占いやオカルト文化などが宗教研究の対象とされるが、各対象がどのような観点から宗教と定義されるかは、それほど論じられない。私見では、宗教を定義しないで済ませるために、宗教性、聖なるもの、霊性、精神文化といった、宗教よりもさらに意味内容が不安定な言葉が用いられている。

こうした状況に対し、本書は、新しい画期的な宗教の定義を示すわけではない。宗教と呼ばれる広範な現象を一つの定義で括ることは今後も不可能だろう。それよりも、米国の作家サム・ハリスが指摘するように、宗教という言葉は、スポーツと同じく、大まかなカテゴリーを指すものと理解した方がよいのである (*Waking Up*)。

スポーツには、マラソン、カーリング、登山、ボクシングなど様々なものが含まれる。だが、英国で野球が不人気だからといって、英国人がスポーツを嫌うとは言わない。また、日本の野球と英国のサッカーを比較し、どちらが本物のスポーツかを議論するのも無意味だ。しかし、宗教については、こうした イ が繰り返されてきた。そして多くの場合、キリスト教をモデルに諸宗教が比較され、日本人は無宗教であるといった分析がなされてきたのである。

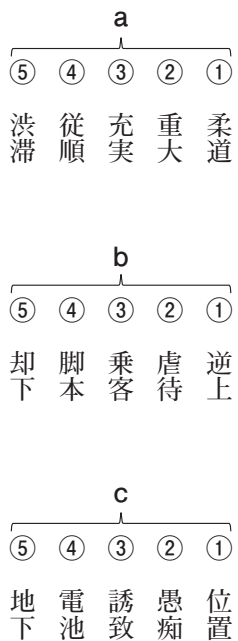
そして、このキリスト教モデルというのが、宗教を心や内面の問題として捉える視座に他ならない。神仏のような超越的存在をめぐる教えの体系があり、それを信者が受容して自らの行動規範にするというものだ。 ウ、信仰というプログラムをインストールされたロボットのような信者が集まる一枚

岩の集団といった宗教のイメージである。

こうした信仰を軸とする宗教組織というイメージが根強く存在するからこそ、**B** 初詣や葬式は宗教の形骸化として語られる。日頃から神仏の実在を感じているか、寺社参拝はそこに祀<sup>まつ</sup>られる神仏への信仰に基づくか、死後の世界を意識しながら葬儀に参列しているかと聞かれれば、多くの日本人は否定する。だが、寺社参拝や葬儀を全く無意味な時間浪費と割り切っているかと言えば、**C** そうでもないはずである。

(岡本亮輔『宗教と日本人』による)

問一 傍線部 a ～ c のカタカナ部分と同じ漢字を含む熟語を、次の中からそれぞれ一つ選びなさい。解答は a ～ c の順にマーク用解答用紙の 10 にマークしなさい。



問二 空欄 ア に入るもつとも適切な語句を一つ選び記号で答えなさい。解答はマーク用解答用紙の 13 にマークしなさい。

- ① 過半の日本人には信仰がある
- ② 過半の日本人には信仰がない
- ③ 過半の日本人には神仏がない
- ④ 過半の日本人は自然崇拜する
- ⑤ 一部の日本人だけが信仰する

問三 傍線部 A 「宗教の定義は一定しない」に対して作者はどのような考えを示しているか。次の中からもつとも適切なものを一つ選び記号で答えなさい。解答はマーク用解答用紙の 14 にマークしなさい。

- ① 一つの定義で括ることは今後可能になるだろう。
- ② 一つの定義で括ることは不可能ではない。
- ③ 一つの定義で括ることは今後也不可能だろう。
- ④ 一つの定義で括ることは意味がないことである。
- ⑤ 一つの定義でしか括ることができないのではない。

問四 空欄 イ に入るもつとも適切な語句を一つ選び記号で答えなさい。解答はマーク用解答用紙の 15 にマークしなさい。

- ① 有意義な議論
- ② 哲学的な議論
- ③ 不毛な議論
- ④ 難解な議論
- ⑤ 国際的な議論

問五 空欄「ウ」に入るもつとも適切な語句を一つ選び記号で答えなさい。解答はマーク用解答用紙の「16」にマークしなさい。

- ① 詳細に言えば
- ② 簡単に言えば
- ③ 要するに
- ④ 極端に言えば
- ⑤ たとえば

問六 傍線部 B 「初詣や葬式は宗教の形骸化として」と言っているのはなぜか。その理由としてもつとも適切なものを一つ選び記号で答えなさい。解答はマーク用解答用紙の「17」にマークしなさい。

- ① 個々の格差を生じるから
- ② 多くの金銭を使用するから
- ③ 日常の中の独立した行動だから
- ④ 最新の様式を取り入れるから
- ⑤ 宗教観が薄いから

問七 傍線部 C 「そうでもないはずである」の理由としてもつとも適切なものを一つ選び記号で答えなさい。解答はマーク用解答用紙の「18」にマークしなさい。

- ① 金銭的な事情のため
- ② 義務的な意味を含むため
- ③ 親族間のつながりが強いため
- ④ 日本文化の一つであるため
- ⑤ その場にいるときの精神は宗教であるため

「問題三」 次の各問いに答えなさい。

問一 次の A ～ E の意味を持つ四字熟語を、後の〈語群〉から、それぞれ一つ選びなさい。解答は A ～ E の順にマーク用解答用紙の 19 ～ 23 にマークしなさい。

- A 大げさに言うこと。
- B 自分の都合のよいようにはからうこと。
- C ひどく安い値段のこと。
- D 物事の不徹底なもどかしさ。
- E いろいろな立場の人が議論しあうこと。

〈語群〉

- ① 異口同音
- ② 百家争鳴
- ③ 二束三文
- ④ 隔靴搔痒そくそうよう
- ⑤ 我田引水
- ⑥ 針小棒大

問二 次の A ～ E のことわざの ( ) に入る語を、〈語群〉から、それぞれ一つ選びなさい。重複はありません。解答は A ～ E の順にマーク用解答用紙の 24 ～ 28 にマークしなさい。

- A 無い ( ) は振れぬ
- B ( ) の長物
- C 人の ( ) も七十五日
- D 天に ( ) する
- E ( ) はかすがい

〈語群〉

- ① 地
- ② 無用
- ③ 唾つば
- ④ うわさ
- ⑤ 子
- ⑥ 袖



